

2002.04.08

## 「日本塑性加工学会 金型分科会」設立趣意書

### ( 英 文 名 : Die and Mold Engineering Committee)

#### 1. 設立の背景

金型技術は塑性加工のなかにあつて、殆どの個別技術に必要不可欠な存在であるにもかかわらず、横断技術的存在であつたが故にこれまでその研究結果が本学会であまり発表されることが少なかったと思われる。このような現状に鑑みて、金型技術の研究・開発の発展に寄与するべく日本塑性加工学会が組織だった研究体制ないし研究組織を構築する事は極めて重要である。

#### 2. 「金型」の範囲

ここでいう「金型」なる用語は型一般を象徴するものとして用いており、極めて広い範囲の概念を包含している。即ち、型の材質的には、金属を主体とするも、セラミックス、ダイヤモンドのような非金属も包含されており、また、型素材に硬質皮膜を被覆したもの、型そのものが溶射のような堆積法によって作られているものも含まれる。「金型」により成形される製品材質としては、金属の板、塊のみならず、プラスチック、ゴムなど広範囲の材質をも含むものとし、製品形状としては、絞り、鍛造のような閉輪郭形状品のみならず、パイプの成形品のような開輪郭品をも含むものとする。さらには、寸法的には、現状のメートルから数十ミリメートルの範囲を主体とするも、将来を見据えて、マイクロ・ナノテクノロジーに応用されるであろうミリメートルから数十マイクロメータまでの型をも含むものとする。

#### 3. 本分科会の目的

本分科会設置の第1の目的は、金型技術の研究・開発に従事、もしくは金型製品の

製造に係わったり、関心を有する研究者・技術者が集まり、討論や情報の交換、さらには公的研究資金獲得のための作業を含む共同作業を通じて個々の研究開発に有益となる場を創設し、この分野の技術的な発展に寄与する事である。第2の目的は、金型技術のような極めて学際的な技術分野における研究発表・技術研鑽・情報交換の場を提供する事により、本学会に関心を寄せつつも発表の場がない故にこれまで当学会への入会をためらっていた、機械技術・設計技術者、機械加工技術者、表面処理技術者、非金属材料技術者およびそれらの研究者など、塑性加工周辺の広範な技術者・研究者をして当学会への入会を決意させる強力な動機付けを提供する事である。

本分科会の設立に際しての研究活動の目標は概略以下のとおりである。

- (1) 塑性加工のみならずあらゆる金型技術に関する内外の研究動向の調査、技術情報の収集および分析
- (2) 金型・金型製造技術の問題点の調査と分析、さらには問題点解決のための共同作業の計画立案
- (3) 新しい金型技術の開発・研究に必要な基本技術および周辺技術に関する調査、情報の収集・分析、評価
- (4) 金型技術の開発・研究に関する産学官の協力体制を構築し、公的研究資金獲得を支援する

#### 4. 本分科会の活動方針

本分科会の活動は、年間3～4回程度開催する研究会、見学会、外部講師を含む講習会などを中心とし、必要に応じて編成するワーキング・グループによる研究・調査および広報活動などからなるが、具体的内容の詳細は、分科会設置後、委員の合議により決定する。

5. 分科会の構成メンバー

日本塑性加工学会会員（賛助会員）に参加の資格があり、任意参加とする。

6. 設置期間

本分科会の設置期間は4年とする。継続設置とする時は、その趣旨を明らかとし、継続に必要な手続きを行なうものとする。

7. 事務局

本分科会の事務局は原則として幹事の所属する職場の所在地に置く。

以上